

平成 23 年度 材料力学 中間試験問題

1. 図 1 に示すように、断面の高さ $h=8\text{cm}$ 、 $b=6\text{cm}$ 、長さ $l=3\text{m}$ の木製はりの一端 A が壁に固定され、他端 B は回転支持で支持されて、均一分布荷重 $w=400\text{N/m}$ が作用している。この木のヤング率は $E=10\text{GPa}$ である。

- (1) はりの自由体線図をかき、A 点での反力 R_A 、固定モーメント M_A 、B 点での反力 R_B の値を求めよ。
- (2) 曲げ剛性 EI の値を求めよ。ただし I は中立軸周りの断面 2 次モーメントである。
- (3) A 点から 1m の距離にある C 点におけるたわみ角 i_C 、たわみ y_C の値を求めよ

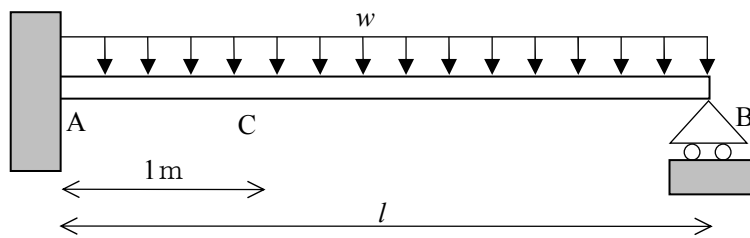


図 1

2. 長さ $l=10\text{m}$ 、直径 $d=2\text{m}$ の鋼製丸棒（剛性率 $G=78\text{GPa}$ ）が 3600rpm で回転して 1500 馬力の動力を伝えている。

- (1) 断面 2 次極モーメント I_p の値を求めよ。
- (2) 棒に働くトルク T および最大せん断応力 τ_{max} の値を求めよ。また、ねじりによって棒の外表面に沿って生じる両端の角度のずれ ϕ の値、棒の断面で生じる両端の角度のずれ ϕ の値を rad 、 deg の単位で求めよ。

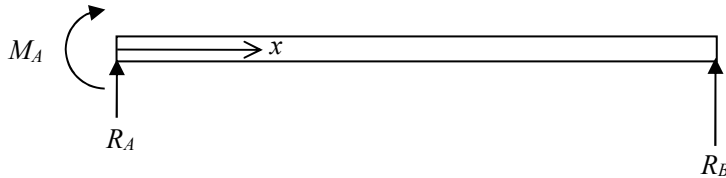
3. 長さ l 、断面の幅 b 、厚さ t 、ヤング率 E （ただし、 $l \gg b > t$ ）のプラスチック製定規を両手ではさみ、長さ方向に圧縮荷重 P を加える。

- (1) 定規が弾性座屈を行うものとして、座屈が起こりやすい曲げにおける断面 2 次モーメント I ならびに最小の臨界座屈荷重 P_{cr} を求めよ。ただし臨界座屈荷重の導出過程を書くこと。
- (2) 長さ $l=30\text{cm}$ 、断面の幅 $b=3\text{cm}$ 、厚さ $t=0.2\text{cm}$ 、またプラスチックのヤング率を $E=3\text{GPa}$ として、最小の臨界座屈荷重 P_{cr} の値を kgf の単位で求めよ。ただし重力の加速度を $g=9.8\text{m/s}^2$ とする。

1. 図1に示すように、断面の高さ $h=8\text{cm}$ 、 $b=6\text{cm}$ 、長さ $l=3\text{m}$ の木製はりの一端 A が壁に固定され、他端 B は回転支持で支持されて、均一分布荷重 $w=400\text{N/m}$ が作用している。この木のヤング率は $E=10\text{GPa}$ である。

- (1) はりの自由体線図をかき、A 点での反力 R_A 、固定モーメント M_A 、B 点での反力 R_B の値を求めよ。
 (2) 曲げ剛性 EI の値を求めよ。ただし I は中立軸周りの断面 2 次モーメントである。
 (2) A 点から 1m の距離にある C 点におけるたわみ角 i_C 、たわみ y_C の値を求めよ。

(1)



$$R_A + R_B = wl, \quad M_A = -\frac{wl^2}{2} + R_B l = \frac{wl^2}{2} - R_A l$$

x の位置での曲げモーメントは、 $M_x = -\frac{wx^2}{2} + R_A x + M_A$ である。よって、A 点でたわみ角、たわみが 0 であることを考慮して、

$$EI \frac{d^2 y}{dx^2} = -M_x = \frac{wx^2}{2} - R_A x - M_A, \quad EI \frac{dy}{dx} = \frac{wx^3}{6} - \frac{R_A x^2}{2} - M_A x, \quad EI y = \frac{wx^4}{24} - \frac{R_A x^3}{6} - \frac{M_A x^2}{2}$$

次に B 点でたわみが 0 であることから、

$$EI y|_{x=l} = \frac{wl^4}{24} - \frac{R_A l^3}{6} - \frac{M_A l^2}{2} = 0, \quad M_A = \frac{wl^2}{12} - \frac{R_A l}{3} = \frac{wl^2}{2} - R_A l$$

を得る。以上より、

$$R_A = \frac{5wl}{8} = \frac{5 \times 400\text{N/m} \times 3\text{m}}{8} = 750\text{N}, \quad R_B = \frac{3wl}{8} = \frac{3 \times 400\text{N/m} \times 3\text{m}}{8} = 450\text{N}$$

$$M_A = -\frac{wl^2}{2} + R_B l = -\frac{wl^2}{2} + \frac{3wl^2}{8} = -\frac{wl^2}{8} = -\frac{400\text{N/m} \times (3\text{m})^2}{8} = -450\text{N}\cdot\text{m}$$

となる。

$$(2) \quad I = \frac{bh^3}{12} = \frac{6\text{cm} \times (8\text{cm})^3}{12} = 256\text{cm}^4 = 256 \times 10^{-8}\text{m}^4$$

$$EI = 10 \times 10^9\text{N/m}^2 \times 256 \times 10^{-8}\text{m}^4 = 25600\text{N}\cdot\text{m}^2$$

(3) (1) の結果より、任意の位置でのたわみ角 i とたわみ y は以下で与えられる。

$$i \approx \frac{dy}{dx} = \frac{1}{EI} \left(\frac{wx^3}{6} - \frac{R_A x^2}{2} - M_A x \right) = \frac{wx}{48EI} (8x^2 - 9lx + 6l^2)$$

$$y = \frac{1}{EI} \left(\frac{wx^4}{24} - \frac{R_A x^3}{6} - \frac{M_A x^2}{2} \right) = \frac{wx^2}{48EI} (2x^2 - 3lx + 3l^2)$$

よって、

$$i_C \approx \frac{dy}{dx} \Big|_{x=1\text{m}} = \frac{400\text{N/m} \times 1\text{m}}{48 \times 25600\text{N}\cdot\text{m}^2} \{8 \times (1\text{m})^2 - 9 \times 3\text{m} \times 1\text{m} + 6 \times (3\text{m})^2\} = 0.0114\text{rad} = 0.652\text{deg}$$

$$y_C = y|_{x=1\text{m}} = \frac{400\text{N/m} \times (1\text{m})^2}{48 \times 25600\text{N} \cdot \text{m}^2} \{2 \times (1\text{m})^2 - 3 \times 3\text{m} \times 1\text{m} + 3 \times (3\text{m})^2\} = 0.00651\text{m} = 6.51\text{mm}$$

2. 長さ $l=10\text{m}$, 直径 $d=2\text{m}$ の鋼製丸棒 (剛性率 $G=78\text{GPa}$) が 3600rpm で回転して 1500 馬力の動力を伝えている.

(1) 断面二次極モーメント I_p の値を求めよ.

(2) 棒に働くトルク T および最大せん断応力 τ_{\max} の値を求めよ. また, ねじりによって棒の外表面に沿って生じる両端の角度のずれ ϕ の値, 棒の断面で生じる両端の角度のずれ ϕ の値を rad , deg の単位で求めよ.

(1) 表面の半径を r_o とすると,

$$I_p = \int_0^{r_o} r^2 \times 2\pi r dr = 2\pi \int_0^{r_o} r^3 dr = \frac{\pi r_o^4}{2} = \frac{\pi(1\text{m})^4}{2} = 1.57\text{m}^4$$

を得る.

(2) 題意より, トルクは $T = P\omega = 1500\text{馬力} \times 75 \times 9.8\text{N} \cdot \text{m/sec} / \text{馬力} \times \frac{2\pi \times 3600\text{rpm}}{60\text{min/sec}} = 4.16 \times 10^8\text{N} \cdot \text{m}$

である. r の位置におけるせん断応力は $\tau = \tau_{\max} \frac{r}{r_o}$ であり, トルクとは

$$T = \int_{r_i}^{r_o} \tau \times 2\pi r dr = \frac{\tau_{\max}}{r_o} \int_0^{r_o} r^2 \times 2\pi r dr = \frac{\tau_{\max}}{r_o} I_p$$

の関係があるので,

$$\tau_{\max} = \frac{T}{I_p} r_o = \frac{4.16 \times 10^8\text{N} \cdot \text{m} \times 1\text{m}}{1.57\text{m}^4} = 264.6\text{MPa}$$

を得る. また, ねじり棒の幾何学より, 表面でのせん断ひずみを γ として,

$$\tau_{\max} = G\gamma = G \tan \phi, \quad \phi = \arctan\left(\frac{\tau_{\max}}{G}\right) = \arctan\left(\frac{0.2646\text{GPa}}{78\text{GPa}}\right) = 0.00339\text{rad} = 0.194\text{deg}$$

$$r_o \phi = l \tan \phi, \quad \phi = \frac{l}{r_o} \tan \phi = \frac{l}{r_o} \frac{\tau_{\max}}{G} = \frac{10\text{m}}{1\text{m}} \frac{0.2646\text{GPa}}{78\text{GPa}} = 0.0339\text{rad} = 1.94\text{deg}$$

である.

3. 長さ l , 断面の幅 b , 厚さ t , ヤング率 E (ただし, $l \gg b > t$) のプラスチック製定規を両手ではさみ, 長さ方向に圧縮荷重 P を加える.

(1) 定規が弾性座屈を行うものとして, 座屈が起こりやすい曲げにおける断面二次モーメント I ならびに最小の臨界座屈荷重 P_{cr} を求めよ. ただし臨界座屈荷重の導出過程を書くこと.

(2) 長さ $l=30\text{cm}$, 断面の幅 $b=3\text{cm}$, 厚さ $t=0.2\text{cm}$, またプラスチックのヤング率を $E=3\text{GPa}$ として, 最小の臨界座屈荷重 P_{cr} の値を kgf の単位で求めよ. ただし重力の加速度を $g=9.8\text{m/s}^2$ とする.

(1) もっとも曲がり易いのは薄い板厚の方向であるので, $I = \frac{bt^3}{12}$ である.

ここで, 両手のひらで定規をはさみ, 定規の両端は回転できるものとする. モーメントのつりあいより,

一端から x の位置における曲げモーメントは $M_x = Py$ である。これより

$$\frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{M_x}{EI} = -\frac{P}{EI}y, \quad y = A \cos \sqrt{\frac{P}{EI}}x + B \sin \sqrt{\frac{P}{EI}}x, \quad \text{ただし } A, B \text{ は定数.}$$

両端でたわみがないので,

$$y|_{x=0} = A = 0, \quad y|_{x=l} = B \sin \sqrt{\frac{P}{EI}}l = 0, \quad \sin \sqrt{\frac{P}{EI}}l = n\pi, \quad n = 1, 2, \dots$$

を得る。これより、最小の臨界座屈荷重は

$$P_{cr} = \frac{\pi^2 EI}{l^2} = \frac{\pi^2 Ebt^3}{12l^2}$$

となる。

$$(2) \quad P_{cr} = \frac{\pi^2 Ebt^3}{12l^2} = \frac{\pi^2 \times 3 \times 10^9 \text{ N/m}^2 \times 0.03 \text{ m} \times (0.002 \text{ m})^3}{12 \times (0.3 \text{ m})^2} = 6.58 \text{ N} = 0.671 \text{ kgf}$$